

# 巻頭言

## 臨床現場での研究の意義

徳島赤十字病院 副院長兼看護部長 庄野 泰乃

研究には、新知見を探求するものと臨床現場の問題解決的アプローチの2種類があり、その結果は実践のエビデンスとなる知識の発展につながります。そして、すべての研究は臨床に還元されなければならないと思っています。

自身のことで恐縮ですが、以前、大学院修士課程に在学し、修士論文に取り組んだことがあります。振り返ると、研究のイロハも知らなかった私が何て無謀な挑戦をしたのかと、今考えても恥ずかしく思います。とにかく「学びたい」の一心で突然決心し、チャレンジしました。案の定、時間と能力の限界と戦った苦難の2年間となりましたが、当時は新人教育の担当者をしており、深い関心を寄せていた卒後臨床研修と臨床看護師のキャリアの意味について、質的研究に取り組みました。2年間の研究過程を経て、新知見が得られた時の喜びは身震いするほどで、研究を通じた学びは私の一生の宝物となっています。

当時を振り返り、学んだことが二つあります。一つは、経験を積み重ねると同時に、文献や理論学習を併行する大切さです。「信念は形式知と経験知から生まれる」と言われるように、文献学習や勉強を通して臨床実践に確信が生まれます。二つ目は、後輩への還元です。これから育つ若い後輩たちの成長の芽を摘まないようにしたいと思いました。そして現在、修士課程を修了した看護師が次々と育ち、臨床看護の発展のために知を探求し、現場に多くの刺激をもたらしてくれています。

先日、院内看護研究発表会が開催され、臨床実践に基づいた18題の発表がありました。研究内容は問題解決的アプローチが多く、臨床における看護問題に介入した結果や、看護師を対象としたもの、管理・教育の観点から分析したものなどが発表され、いずれも知的好奇心をかき立てられる時間となりました。文献検索から始まり、論文にまとめるのは多大な労力と時間が必要となります。しかし、苦労なくして達成感や充実感を得られません。ぜひ、多くの皆さんが研究に取り組み、達成感を味わっていただきたいと思っています。

臨床実践は、研究活動とともに発展します。その意味において、臨床における研究活動は非常に意義深い取り組みです。本号にも多くの臨床研究や症例報告が掲載されました。これらの論文が、未来の臨床実践に還元されることを願っています。